

近代の日本（オ）（カ） 二度の世界大戦

練馬区立石神井西中学校 主任教諭 今村吾朗

1 単元の目標

【知識・技能】

第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きや大戦後に国際平和への努力がなされたこと、軍部の台頭から戦争までの経過、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べたり、行動経済学の視点と関連付けながらまとめたりする技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、事象の意味や意義、背景とその影響、国際協調の動きや民主主義的な思想の普及、国内の政治体制と大日本帝国憲法の仕組み、アジア諸国や欧米諸国との関係、メディアの台頭、行動経済学の視点などに着目して多面的・多角的に考察したり、考えたことを説明したり力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

太平洋戦争開戦の判断と行動経済学との関連に興味をもち、二度の世界大戦に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究し、解決しようとしている。

2 単元計画

時	学習内容	○学習活動	・留意点 資資料
1	太平洋戦争	○日米のラジオ放送、開戦の映像、アメリカ映画から太平洋戦争について知る。 ○当時の戦力比較を読み取り、学習課題をたてる。	資日米の海軍戦力比較 資日米の戦力・国力比較 資開戦のラジオ放送を聞く人々（映像）
学習課題：なぜ、日本は正確な情報（に接する機会）があったにもかかわらず、米英と戦争することを選んだのか。			
		○各自で仮説を立てる。 ○仮説を問いの形で作り直し、学習の見通しをもつ。	・学習課題に対する仮説を立て、グループで検討させる。
2	第一次世界大戦の勃発	○WWI の映像、ピーター・ジャクソン「彼らは生きていた」から WWI に興味をもつ。 ○なぜ、戦争は長期化したのか。主要国の GDP や戦費の資料を基に、経済力の高い連合国が勝利したことを理解する。 ○主要国の戦費、経済成長率などの資料から総力戦について具体的に理解する。	資映画「彼らは生きていた」 資主要国の戦費や実質経済成長率が分かる表やグラフ ・総力戦とはどのようなことか資料から読み取らせる。
3	大戦景気	○マルタ島の日本軍戦没者墓地の場所から日本参戦に興味をもつ。 ○なぜ日本は好景気となったのか。1910年の銀座、マンハッタンの様子や日本の参戦前の GDP を読み取り、戦争中に輸出増から景気が良くなったことを理解する。 ○景気が良いとはどういうことか、大戦景気や戦後恐慌の実態を読み取る。	資マルタ島の地図 資マルタ島にある日本軍戦没者墓地の写真 資物価指数の変動や実質賃金指数のグラフ ・上記のグラフを見ながら、都市部の富裕層や労働者など立場に分けて考えさせる。

先生のための夏休み経済教室「経済の視点で歴史の授業を創る」資料

4	ロシア革命	<ul style="list-style-type: none"> ○タンネンベルクの戦いから当時の戦いに興味をもつ。 ○なぜロシア革命は起こったのか、諸資料を基に背景を理解する。 ○シベリア出兵に関する資料から日本のねらいについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンネンベルクの戦いの状況に簡単に説明する。 資第2時で使用した表やグラフ ・ロシア国内で総力戦への批判が社会主義国家の成立へとつながったことを捉えさせる。 資主要国の軍事支出の推移
5	講和会議	<ul style="list-style-type: none"> ○講和に関わる諸資料から何があったのか興味をもつ。 ○どのように国際協調の動きが進んだのか、ワシントン会議の内容を資料を基に、理解する。 ○戦後のドイツ、日本の経済状況を資料を基に読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資軍艦土佐の沈没（映像資料） 資ワシントン会議（映像資料） ・資料集の資料を中心に講和会議の流れを捉えさせる。 ・戦勝国と敗戦国がどのような状態となったか、経済状況から捉えさせる。
6	国内の政治改革	<ul style="list-style-type: none"> ○大戦景気のグラフを読み取り、景気の良い悪いについて考える。 ○政党内閣の成立過程を理解する。 ○これまでの学習を基に今後の外交政策をどのように行っていくか、政策を決定する立場から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 資第3時で使用した表やグラフ ・政党政治の成立過程については、明治政府の成立から簡単に振り返りをさせる。
7	社会運動	<ul style="list-style-type: none"> ○女性の訴え、労働者の動きから社会運動について興味をもつ。 ○これまでに扱った資料から当時の日本の社会背景をつかみ、社会運動・女性の社会進出について理解する。 ○これまでの学習を基に今後の国内政策をどのように行っていくか、政策を決定する立場から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 資平塚らいてうの言葉 資第3時で使用した表やグラフ ・決定することや判断することの難しさに気付かせ、学習課題の解決と関連付ける。
8	大正期の文化	<ul style="list-style-type: none"> ○モボ・モガについて知り、大正文化について興味をもつ。 ○文化の大衆化は社会にどのような影響を与えたのか、成立の背景を理解する。 ○これまでの学習を振り返り、学習課題の解決、自分の問いを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資大正時代の日常（映像資料） 資モボ・モガの写真 ・メディアの発達について捉えさせる。 ・振り返る際は、分からなかったこと、分かったこと、深まったこと、関連付けて考えられたことなどを整理させる。
9	行動経済学の視点を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ○人間が考える思考例を読みながら、自己評価する。 ○グループで話し合い、自分のバイアスに気付く。 ○行動経済学の視点を学ぶ。 ○これまでの学習内容と行動経済学のどのような視点が関連付けられるか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ※本資料の3を参照 ・仮説で構わないので、関連付けられると考えられるものを書き出させる。
10	世界恐慌	<ul style="list-style-type: none"> ○世界恐慌発生時の映像を見ながら、何が起こったのか、話し合う。 ○世界恐慌に対する各国の対応について理解する。 ○世界恐慌が世界に与えた影響について、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資世界恐慌発生時の様子（映像資料） ・恐慌の影響を資源をもてる国ともてない国とに分けて考えられるようにする。

先生のための夏休み経済教室「経済の視点で歴史の授業を創る」資料

11	日本の不景気	<ul style="list-style-type: none"> ○日本を襲った不景気の流れを映像資料からつかむ。 ○都市部や農村部では、どのような影響を受けたのか理解する。 ○大日本帝国憲法下における意思決定の機能不全について、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資 日本の不景気の様子(映像資料) 資 農産物の生産価格と農業所得の推移 資 労働者の賃金と物価の推移 資 大日本帝国憲法 55 条 <ul style="list-style-type: none"> ・不景気の流れを変えられない政府へ不満がたまっていったことを捉えさせる。
12	国連脱退	<ul style="list-style-type: none"> ○松岡洋右の国連演説、帰国後のスピーチから日本のおかれた状況をつかむ。 ○満州事変と軍部の台頭について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資 国連脱退時の松岡洋右の演説(映像資料) 資 帰国時の松岡の演説(演説資料) <ul style="list-style-type: none"> ・国民が万雷の拍手で松岡洋右を迎えている様子から疑問をもたせる。
13	日中戦争	<ul style="list-style-type: none"> ○日中戦争の特徴を映像資料から知る。 ○日露戦争の勝利を若者世代で味わった世代が今、軍の中心にいることがどのような意味をもつか話し合う。 ○国民生活の変化を資料集から理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資 日中戦争(映像資料) <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの中立法の影響で日中双方ともに宣戦布告を望まなかったことを理解させる。
14	WW II	<ul style="list-style-type: none"> ○WW II までのヨーロッパの動きを教科書や資料集から知る。 ○ドイツが戦争に至った理由を第一次世界大戦後の講和条約の内容などから考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 時の内容とも関連させながら考えさせる。
15 ～ 18	太平洋戦争の選択	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返りながら、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 ○お助け資料を活用し、自分の考えを練り上げる。 ○屋台村発表 	<ul style="list-style-type: none"> 資 お助け資料(自作) ※授業の進め方は本資料 4 を参照
19	まとめ・感想	<ul style="list-style-type: none"> ○戦況の悪化から終戦までを教科書を通して理解する。 ○学習課題に対する自分の考えをレポートにまとめる。 ○単元の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争の決断がその後、どのような影響を世界や日本に及ぼしたのか、考えさせる。 資 第一次世界大戦と第二次世界大戦の人的・物的被害

レポートの評価

評価規準

太平洋戦争開戦の判断の背景とその理由について、多面的・多角的に考察し、表現している。

評価基準

- A：太平洋戦争開戦の判断の背景とその理由について、行動経済学と関連付けながら、その根拠となる歴史的事象を十分にあげている。
- B：太平洋戦争開戦の判断の背景とその理由について、行動経済学の視点を示しながら、その根拠となる歴史的事象をあげている。
- C：太平洋戦争開戦の判断の背景とその理由について、行動経済学の視点を示しながら、その根拠となる歴史的事象をあげていない。

3 行動経済学の視点を学ぶ。(第9時)

	人間が考える思考の例	自己評価
1	人から「これは貴重な食材だ」と言われると、美味しく感じる。	100 50 0
2	「1年後に2万円をもらう」「今日1万円をもらう」選ぶとしたら、前者を選ぶ。	100 50 0
3	行列が長いと、並んで待っている時間をもったいなく感じるので買いたくない。	100 50 0
4	「手術の成功率は95%」と「失敗率は5%」の印象はどちらも同じである？	100 50 0
5	自分の信念と一致したり、信念を裏付けたりする情報ばかりを集めてしまう。	100 50 0
6	人には継続的な出費を避ける傾向があると思う。	100 50 0
7	少子高齢化、人口減少、貧困、格差社会、気候変動などの社会問題は知っているが、今のままでよいと思う。	100 50 0
8	様々な危機が予想されてはいるが、何となく大丈夫だろうと楽観視している。	100 50 0
9	自らが所属しない集団よりも、自らが所属する集団に無意識的な選考を持ってしまう。また、自らが所属しない集団の人々を過度に一般化し、事実とは異なるステレオタイプに当てはめてしまう。	100 50 0
10	SNSや掲示板における書き込みは、個人の特定が難しいので、周りの意見も聞きながら、ついつい発言の内容が誇大化してしまう。	100 50 0

考察内容

	人間が考える思考の例	名称
1	偽薬でも医師の言葉を信じて病気が治ってしまうなど、人は思い込みに影響されることがある。	プラシーボ効果
2	「今日1万円をもらう」と答える人が多い。目の前のことを課題に評価する傾向がある。	現在バイアス
3	行列が長いほど人は並びたくなる。大勢の人たちと同じ行動をとってしまう。	同調性バイアス
4	「失敗率」を出されると嫌な気持ちになる。利益よりも損失を重く感じる傾向がある。	プロスペクト理論
5	認知能力が優れている人ほど、情報を合理化して都合の良いように解釈する能力も高くなり、人によっては自分の意見に合わせて巧みにデータを歪めてしまう。	確証バイアス
6	人は何かにお金をつぎ込むと、その分を取り戻そうとして続け(て購入する)傾向がある。	サンクコスト
7	変化を好まない保守的な傾向と、たとえ一部の人に不利益があろうとも、現状を正当化したくなる傾向。	現状維持バイアス
8	非常事態への対応を避けたがる傾向。	正常バイアス
9	ステレオタイプで人は判断しがちである。概念に潜むバイアス。	内集団バイアス ステレオタイプ化
10	1人であれば節度のある判断ができる人物であっても、集団になるとリスクの高い危険な判断をとりやすくなってしまうこと	リスキーシフト

4 屋台村発表に向けたお助け資料の作成方法（第15時～18時）

屋台村発表に向けた準備ではこれまでの学習で使用した資料や学習内容に関わるものをコンパクトにまとめた資料を合計6種類、用意した。生徒は、その中から自分の考えを作り上げる上で必要な資料を選択し、発表に向けた準備を行った。

『加藤陽子, NHK さかのぼり日本史②昭和 とめられなかった戦争, 2011年, p138』の場合 P60～「四十歳代の共通体験」を引用した。

四十歳代の共通体験

日米開戦の最大の推進力となった陸海軍の将校たち、とりわけ参謀本部・軍令部の中堅幕僚たち、彼らの内面にはいったい何があったのかについて考えてみたいのです。

ところで、彼らに共通するある体験がありますが、何だかわかりますか？ 答えは「日露戦争」です。日露戦争は1904～05年に戦われた戦争なので、36年も前。40歳代の彼らは、もちろん参戦したわけではありません。けれども、「少年のときに日露戦争を体験した」という共通点があるのです。（後略）

『牧野邦昭, 経済学者たちの日米開戦, 新潮選書, 2018年, p270』の場合 P152「なぜリスクの高い選択が行われたのか①—行動経済学による説明」を引用した。

なぜリスクの高い選択が行われたのか①—行動経済学による説明

このように、現代の目から見て非合理と思われるリスクの高い選択が行われたのはなぜか。筆者は現時点では、逆説的ではあるが「開戦すれば高い確率で日本は敗北する」という指摘自体が逆に「だからこそ低い確率に賭けてリスクを取っても開戦しなければならぬ」という意思決定の材料となってしまったのだらうと考えている。（後略）

その他、NHKのテレビ番組の内容を紹介したり、行動経済学の視点（サンクコスト、リスクシフトなど）の考えと関連付けられるものを紹介したりした。

授業の進め方

屋台村発表については島根大学のポスターセッションの動画を参照した。

5 参考資料

- 詳説日本史図録・世界史図録, 山川出版社
- 渡部竜也・井手口泰典, 社会科授業づくりの理論と方法, 明治図書, 2020年, p. 228
- 井上寿一, 第一次世界大戦と日本, 講談社現代新書, 2014年, p. 274
- 板谷敏彦, 日本人のための第一次世界大戦, 角川ソフィア文庫, 2020年, p528
- ウェブサイト「カイゼン視点からみる第一次世界大戦」
- NHKスペシャル 新ドキュメント太平洋戦争 2021年～放送
- 水木しげる, コミック昭和史①～⑧, 講談社文庫
- 加藤陽子, NHK さかのぼり日本史②昭和 とめられなかった戦争, 2011年, p138
- 服部龍二, NHK さかのぼり日本史外交編(2)昭和 “外交敗戦”の教訓, 2012年, p186
- 牧野邦昭, 経済学者たちの日米開戦, 新潮選書, 2018年, p270
- 大竹文雄, 行動経済学の処方箋, 中公新書, 2022年, p236
- 大竹文雄, あなたを変える行動経済学, 東京書籍, 2022年, p239
- 大塚英志, 大政翼賛会のメディアミックス, 平凡社, 2018年, p303
- 細谷功, 仕事に生かす地頭力, ちくま文庫, 2015年, p. 332
- 細谷功, フローとストック 世界の先が読める「思考」と「知識」の法則, KADOKAWA, 2024年, p. 240